令和6年11月1日

令和６年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和6年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　３５　　人

②　算数　　３５　　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

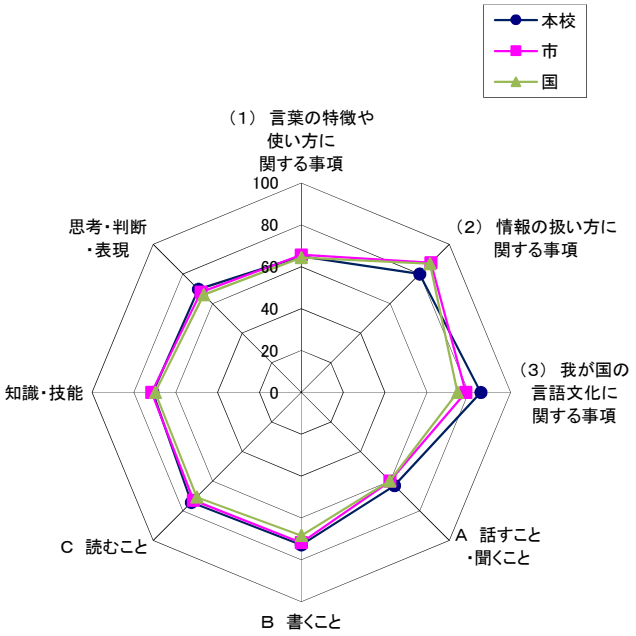
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.0	65.7	64.4
	（2） 情報の扱い方に関する事項	80.0	87.6	86.9
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	85.7	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	62.9	59.9	59.8
	B 書くこと	72.9	71.8	68.4
	C 読むこと	74.3	72.9	70.7
観点	知識・技能	71.0	71.5	69.8
	思考・判断・表現	69.6	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

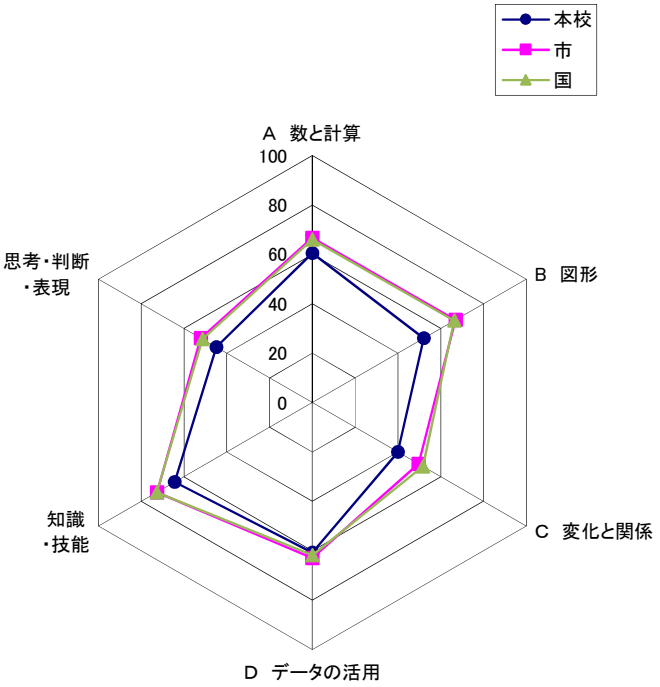
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，全国平均とほぼ同じである。 ○文の中における主語と述語との関係を捉える問題の正答率は68.8%で，全国平均を6.3ポイント上回っている。 ●漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う問題の正答率は74.3%で，全国平均を1.7ポイント下回っている。	・熟語の意味や用法を確認しながら漢字の学習を進めるなどして，文の中で正しく漢字を使うことができるようにする。 ・日頃から様々な種類の多くの文章に触れる機会を多くもたせ，特徴を正しく捉える活動を取り入れていく。 ・読書の奨励，言語の特徴や使い方に関する課題内容の工夫などにより，語彙力を高めていく。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，全国平均より6.9ポイント低い。 ○情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかを問う問題で，全国平均を下回っていたものの正答率が80.0%であった。 ●この問題に対する本校の無回答率が2.9%であり，全国平均の0.9ポイント上回っている。	・様々な資料から必要な情報を選択し，適切に活用する学習活動を多く取り入れ，情報を整理，分析する力を高めていく。 ・原因と結果を表す短文作りを通して，情報と情報の関係付けの仕方を確実に理解することができるようにする。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，全国平均より11.1ポイント高い。 ○日常的に読書に親しみ，読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかをみる問題で，全国平均を大きく上回った。	・朝の読書の時間や読書週間など，これまでの取り組みを生かして児童の読書への意識を高める。 ・授業における振り返り活動をさらに充実させ，自分の考えを端的に文章で表現する力を高める指導を行う。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，全国平均より3.1ポイント高い。 ○目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，伝え合う内容を検討することができるかをみる問題の正答率は71.4%で全国平均を8.9ポイント上回った。 ●資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる問題で，4.3ポイント下回った。	・今後も，今まで同様に，疑問に感じたことは質問したり，話し手が何を伝えたいのかをよく考えながら話を聞けるようにしていく。 ・話を聞きながら，大切なことはメモを取る練習を行い，必要なことを聞き逃さないようにしていく。 ・「海道小スタンダード」を活用して，話し方・聞き方指導の徹底を図る。
B 書くこと	平均正答率は，全国平均より4.5ポイント高い。 ○目的や意図に応じて，事実と感想，意見とを区別して書くなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかみる問題で，全国平均を6.3ポイント上回った。	・文章全体の構成を意識して，読み手に分かりやすい文章を書くことができる指導を徹底していく。 ・文章を書く際には，表現の仕方を工夫させ，理由を明確にしながら書く練習を多く取り入れていく。 ・授業中だけでなく，各行事の振り返り，日記など，日頃から自分の考えを書く活動を多く取り入れ，自分の意図を分かりやすく相手に伝えることを意識して文章を書くことができるようにする。
C 読むこと	平均正答率は，全国平均より4.4ポイント高い。 ○人物像や具体的に想像することができるかをみる問題で，全国平均を7.5ポイント上回った。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることができるかをみる問題では，無回答率が11.4%であり，全国平均とほぼ変わらないものの高い割合であった。	・文章の構成を意識しながら，書かれている内容を的確に読み取り，必要な情報のみ抜き出して要約する活動を多く取り入れていく。 ・文章を要約した後に自分の考えをまとめる活動を通して，様々な情報を用いて自分の考えを深めていけるようにする。 ・文章の中で登場人物の関係について，描写をしっかり想像させ，それを基に内容を正確に捉えるように繰り返し指導していく。

宇都宮市立海道小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	60.5	66.7	66.0
	B　図形	52.1	66.9	66.3
	C　測定			
	C　変化と関係	40.0	49.6	51.7
	D　データの活用	60.7	62.9	61.8
観点	知識・技能	64.4	72.6	72.8
	思考・判断・表現	44.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は，全国平均より5.5ポイント低い。 ○計算の性質を基に，計算の仕方について考察し求め方と答えを記述する問題では，正答率が62.9%で全国平均を6ポイント上回っている。 ●除数（小数）と商の大きさの関係についての問題では，正答率が57.1%で全国平均を12ポイント下回っている。 ●除数が小数の除法の計算では，正答率が57.1%で全国平均を13ポイント下回っている。	・授業の導入時に関連する既習内容の復習を行ったり，朝の学習や宿題等で継続的に行ったりすることで，基礎・基本の確実な定着を図れるようにする。 ・他の領域や他の教科と関連させた問題を取り上げたり，日常生活に生かすことのできる活動を行ったりすることで，知識として身についたことを活用する力を伸ばせるようにする。
B　図形	平均正答率は，全国平均より14.2ポイント低い。 ●直方体の見取り図をかく問題では，正答率が68.6%で全国平均を16.9ポイント下回っている。 ●直径の長さ，円周の長さ，円周率の関係について理解しているかみる問題では，正答率が48.6%で全国平均を22.7ポイント下回っている。	・図形の学習では，観察や構成などの活動を通して，図形の意味を理解し，図形の性質を見付けたり確かめたりすることを大切にしていく。 ・具体物やICTを用いて図形を操作する活動を授業に取り入れることで，図形を構成する要素に着目して，図形の意味や性質を基に，作図の仕方を多様に考えることができるようにする。
C　変化と関係	平均正答率は，全国平均より11.7ポイント低い。 ●速さが一定であることを基に，道のりと時間の関係について考察する問題では，正答率が54.3%で全国平均を15.7ポイント下回っている。 ●速さの意味について理解しているかみる問題については，正答率が42.9%で全国平均を11.2ポイント下回っている。	・既習の除法や乗法が単位量あたりの考え方に基づいていることを確認するとともに，日常生活の中から問題を作成し，実生活で活用できるような力を身に付けさせていく。 ・朝の学習や宿題において，速さや割合に関する基本的な問題の復習を継続的に行うことで，基礎・基本の確実な定着を図れるようにする。
D　データの活用	平均正答率は，全国平均より1.1ポイント低い。 ○円グラフから割合を読み取る問題では，正答率が82.9%で全国平均を2.1ポイント上回っている。 ○表を読み取り，必要なデータを取り出して分類整理する問題では，正答率が77.1%で全国平均を3.8ポイント上回っている。 ●表から必要な数値を読み取って式に表し，基準値を超えるかどうかを判断する問題では，正答率が40%で全国平均を9.3ポイント下回っている。	・日常生活の事象について，目的に応じて必要なデータを収集，分類整理し，データの特徴や傾向に着目して考察する学習を取り入れていくことで，統計的な問題解決の方法で考察する力を付けられるようにする。 ・グラフの中から読み取ったことをグループで共有し合う活動を取り入れることで，学び合いを通して多面的な見方があることに気付かせるとともに，目的意識をもって取り組むことができるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の肯定的回答が100%であった。今後も児童の自己肯定感を高める声掛けや指導を行いながら，自他ともに大切にできる思いやりの心を育んでいく。
○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答の割合が91.5%であり，県及び全国の割合を上回った。引き続き，社会科や総合的な学習の時間，学校行事等を中心に，住んでいる地域について知ったり理解を深めたりすることができる活動を行っていく。
○「困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の肯定的回答が，80%であり，県及び全国の割合を10ポイント程度上回った。教育相談やスクールカウンセラーとの連携の成果だと考えられる。今後も家庭と連携を図りながら，児童に寄り添った指導をしていく。
○「学習した内容について，分かった点やよく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか。」では，肯定的回答の割合が88.6%で県や全国の平均を上回った。今後も学習した内容をそのままにせず，次の学習につなげていけるよう声掛けをしていく。
●「算数の勉強は大切だと思いますか。」，「算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか。」の肯定的回答が100%であったのに対し，「算数の勉強は好きですか。」の肯定的回答が42.8%であり，県及び全国の割合を15ポイント以上下回った。単元ごとに理解度を把握し，児童の実態に合わせた授業づくりの工夫をすることで，算数に対する興味関心を伸ばしていく。

宇都宮市立海道小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習内容の定着を図るための活動の充実	「海道小学習のきまり」に示された約束を徹底するとともに，既習事項を振り返る場の設定や繰り返し学習の工夫，家庭学習を推奨するなどして定着を図る。	児童質問調査の「学習した内容について，分かった点やよく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか。」の肯定的回答は8割を超え，国の肯定的回答を上回った。
対話的な学びを通して，共に高めあえる集団作り	活動形態を工夫することで協働的な学び合いの場を多く設定し，他者の意見や考えに触れ，自分の考えを深めたり広げたりする活動の実現を図る。	児童質問調査の「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の肯定的回答は，100%であり国の回答を大きく上回った。
児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫	単元や内容のまとまりを見通した授業を展開するとともに，めあてに沿った振り返りを充実させることで，児童が自らの成長を実感し，次の学習への意欲をもてる学習の実現を図る。	児童質問調査の「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができている。」の肯定的回答は8割を超え，国の肯定的回答を上回った。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「情報の扱いに関する事項」の領域で，国と比べて正答率が低い。児童質問調査では，「自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。」に肯定的に回答した児童は，62.8%で，国と比べ4.8ポイント低い。	相手，目的や意図，場面や状況などに応じて，自分の考えを分かりやすく表現する力（聞くこと・話すこと・書くこと）を育成するために，各教科や領域で言語活動の充実を図る。	授業の中で，目的を明確にして聞こうとしたり，相手意識をもち，理由や根拠をはっきりさせて書いたり話したりする活動を計画的に取り入れることで，表現力の育成を図る。 また，誰もが安心して話し合いに参加できる教育環境を整えるとともに，一人一台端末を効果的に使い，分かりやすく説明したり，児童の思考や理解を深めたりしていく。